

第214回中国理解講座
中国の書と日本の書

講師 承 春先 氏

(大東文化大学、東洋大学、立命館孔子学院東京学堂講師)

上海生まれ、1988年来日、筑波大学大学院修了、芸術学修士。以降昭和女子大学、大東文化大学で中国語、書道、中国文化史教える傍ら愛知万博での中国語同時通訳等の通訳や翻訳の仕事に関わった。二十数年に亘り、中国語や中国文化について教鞭をとる。現在は東洋大学で中国語を、立命館孔子学院では社会人を対象に中国の時事や文化にも触れながらオンライン授業と対面授業で準上級・上級の講座を担当している。また、大東文化大学では中国語のほか、中国絵画演習、書論・鑑賞、地域連携センターでの「絵と書のコラボレーション」講座を担当。書道においては、大東文化大学「100年の書」教員出品、『齋藤筑後守記念碑』石碑書丹。月島書画会主催。国際文字文化普及協会会員。訳書に『経営就是改革』鈴木松夫著、『人為什麼會言行不一』齊藤 勇著、『汉字书法审美范畴考釋』河内利治著（いずれも上海社会科学院出版社出版）がある。

講演概要

「書」といえば「書道」という言葉を想起します。しかし、書と書道には違いがあります。なぜ書道と呼ばれるようになったのか、この「道」はどのような意味を表すのか、そして、中国語を勉強されている方であれば、中国語では「書法」と言うこともご存じのことでしょう。「書法」と「書道」にはどのような違いがあり、単に中国語と日本語の違いなのか、歴史や資料からこれらを紐解いていきます。それから漢字の「筆法」と文字の芸術としての「形」についても講義します。平仮名や片仮名は漢字に由来しますが、漢字からどのような影響を受けているのでしょうか。仮名書と隷書についても触れ、専門的な内容も交えて説明します。「書」はまさしく日本と中国の共通する文化の一つです。話者は長く中国語を教えています。本講義では、話者の専門である「書」を通じて中国文化を知っていただき、私たちの身近な「書」の奥深さと趣を感じていただけたら嬉しいです。

1/24^[土]
13:30~15:00
立命館東京キャンパス教室4
＋オンラインライブ配信

参加無料（要事前申込）

お問合せ 立命館孔子学院
603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学アカデミア立命 21
TEL：075-465-8426 FAX：075-465-8429
E-MAIL：koza@st.ritsumei.ac.jp
HP：https://www.ritsumei.ac.jp/confucius



立命館孔子学院
Confucius Institute at Ritsumeikan



中国の書と